



社会・環境報告書 2019

ホシザキ株式会社

●本報告書に関するお問い合わせは、下記担当部署までお願いいたします。
発 行：ホシザキ株式会社
担当部署：総務部総務課環境係
所 在 地：〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16
T E L：0562-96-1130
F A X：0562-97-5104
U R L：http://www.hoshizaki.co.jp/



ホシザキ株式会社

CONTENTS

- P 01 編集方針
- P 02 トップメッセージ
- P 03 ホシザキグループの概要
- P 05 ホシザキグループの経営理念と社会・環境活動
- P 07 特集1 グローバルでの環境配慮型製品の開発
- P 09 特集2 災害発生時のお客様・地域支援
- P 11 ガバナンス報告
- P 13 社会報告1 投資家との関わり
- P 14 社会報告2 お客様との関わり
- P 15 社会報告3 地域社会との関わり
- P 17 社会報告4 社員との関わり
- P 19 環境報告1 環境マネジメントシステム推進組織体制
環境目標と実績、マテリアルフロー
- P 21 環境報告2 地球温暖化の防止
- P 22 環境報告3 廃棄物の発生抑制

編集方針

本報告書は、ホシザキ株式会社における社会・環境活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの推進を図ることを目的に発行しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

対象範囲

ホシザキ株式会社と一部グループ会社の取り組みを対象としています。ただし、環境報告のデータは、ホシザキ単体のデータです。

対象期間

2018年1月1日～2018年12月31日

トップメッセージ

経営理念に基づく事業活動を通じて 持続可能な社会の実現に貢献します

まず冒頭に、当社の国内グループ会社にて発覚した不適切な取引等の件、関係者の皆様にも多大なご心配とご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。こうした事態を再発させないためにも、今後当社の強い指導のもとで、ガバナンス体制の強化、コンプライアンスを含む内部統制強化、グループ会社の企業風土改革に積極的に取り組んでいきます。

当社グループは、今後とも環境問題には積極的に取り組んでまいります。2016年に発効したパリ協定に象徴されるように、気候変動などの環境問題への対策は国境を越えた人類共通の課題となっており、世界の主要国は、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの拡大などに向けて動き始めています。ESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みは、企業の評価指標として今後も重視されると予想されます。

当社グループは、フードサービス機器の総合メーカーとして、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを経営理念に掲げています。「良い製品は良い環境から」を合言葉に、経営の透明性の確保や事業活動と環境との調和、働きやすい環境の構築などを通じて、多くのステークホルダーの皆様から信頼される企業づくりにつとめています。

この度の2019年度版では、ステークホルダーの皆様にご紹介し、皆様とコミュニケーションをより一層図るために「環境報告書」を発展させ、新たに「社会・環境報告書」として作成しました。特集では、製品の省エネルギーなどの環境配慮性能の向上を通じて、グローバルで地球温暖化対策に貢献する様子をお伝えするとともに、近年増加傾向にある災害発生時のお客様や地域社会への支援について紹介しています。

これからも多くのステークホルダーの皆様との信頼の絆を一層強めるために、企業倫理や社会的責任の遂行はもとより、環境性能を追求した製品や食環境を豊かにするサービスをお客様に提供することなどにより、持続可能な社会の実現に貢献します。

ステークホルダーの皆様には、ぜひ本報告書をご覧ください。ご意見をいただくとともに、今後も末永くご理解とご期待を賜りますようお願い申し上げます。

ホシザキ株式会社
代表取締役社長

小林 靖浩

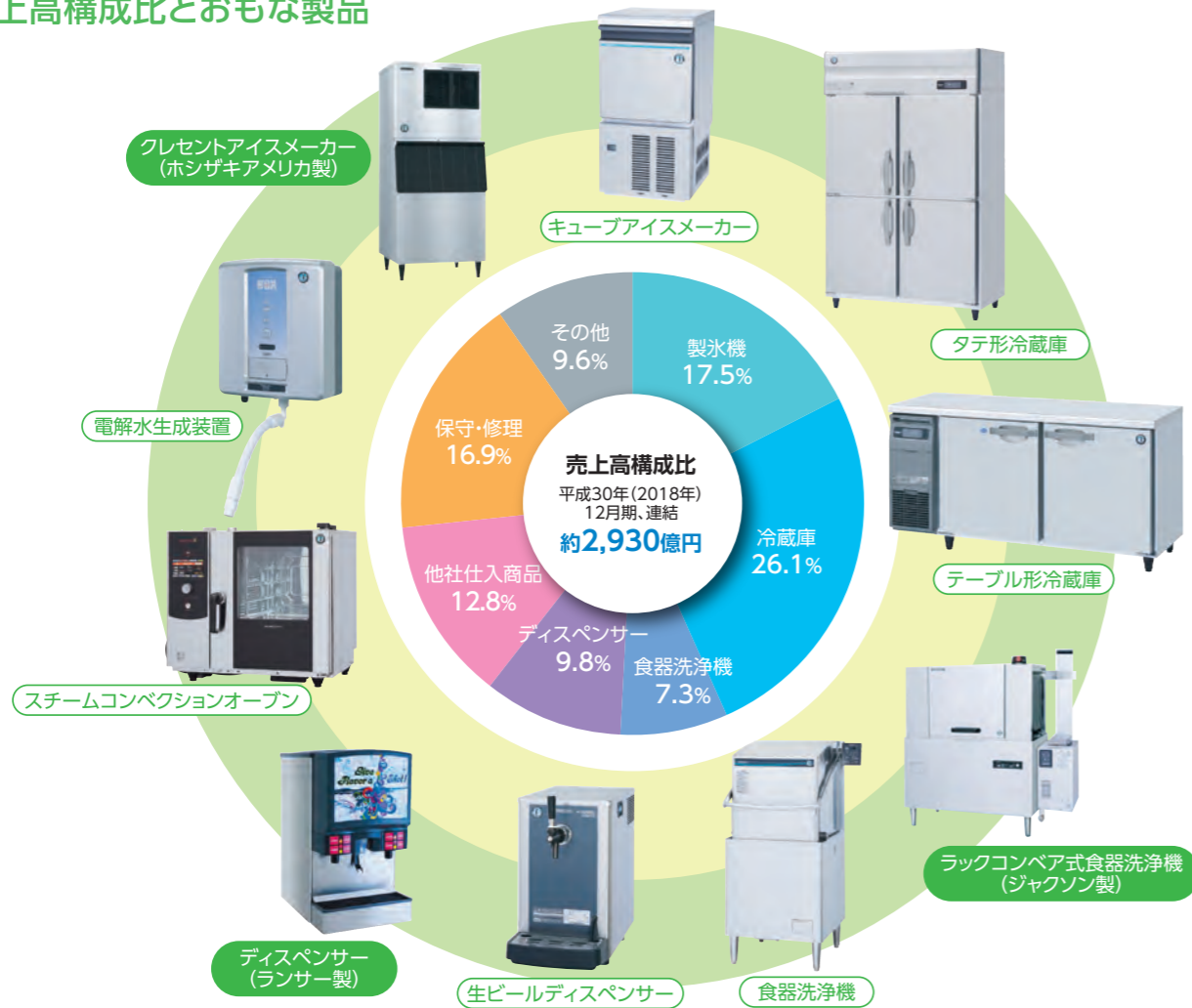


ホシザキグループの概要

製品とサービスの総合力で、 食環境の幅広いシーンをグローバルで支えています。

ホシザキグループは、フードサービス機器の開発、製造、販売およびメンテナンスなどのサービスを通じて、世界中の食のシーンを支えています。また、環境配慮型製品の開発やお客様への省エネ・省力化のご提案、メンテナンスなどを通じて、環境への取り組みや社会貢献を積極的に進めています。今後もグループ一丸となって社会に貢献してまいります。

売上高構成比とおもな製品



会社概要

商号 ホシザキ株式会社
設立 1947年(昭和22年)2月5日
資本金 8,008百万円(2018年12月期)
売上高 約2,930億円(2018年12月期、連結)

代表者 代表取締役社長 小林靖浩
本店所在地 〒470-1194
愛知県豊明市栄町南館3番の16
従業員数 12,982名(2018年12月期、連結)

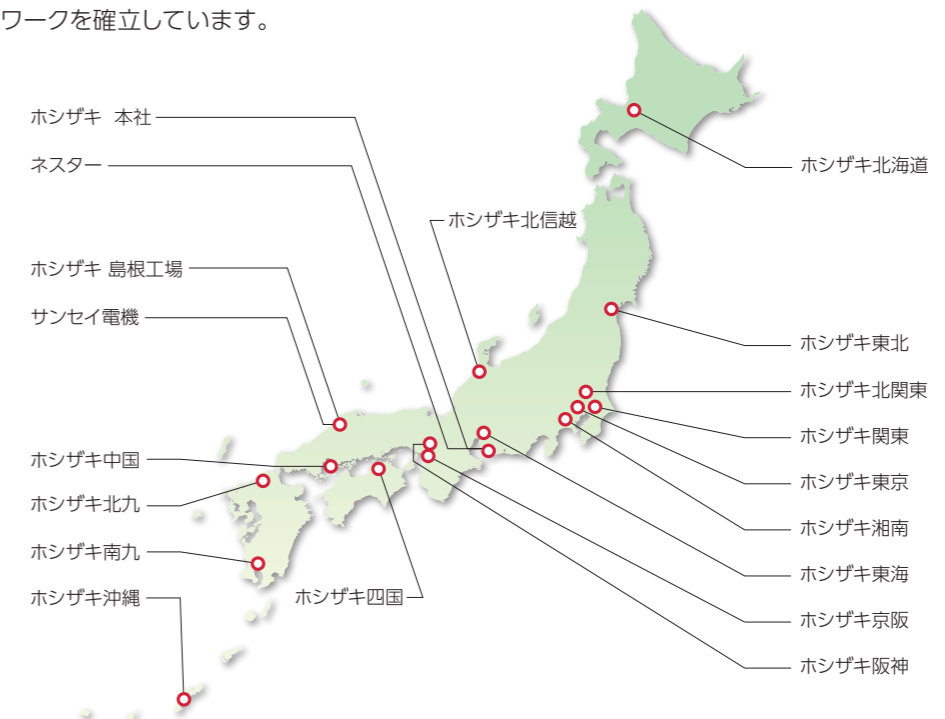
グローバルネットワーク

グローバルネットワークを通じて、米州・欧州・アジアを中心に、各国・各地域への製品供給を積極的に展開しています。



国内ネットワーク

15の国内販売会社体制のもと、全国443カ所(2018年12月末現在)の営業所展開による、きめ細やかな販売・アフターサービスのネットワークを確立しています。



おもなサービス



厨房設計など

食に関する施設の厨房のニーズにお応えするため、プランニングから設計、施工・厨房機器設置までトータルでご提案します。調理をする方々の衛生的かつ効率的なオペレーションを可能にする、最適な環境を実現します。



サービス・サポート

お客様に製品を快適にご利用いただくため、製品のメンテナンス・点検などをおこないます。万が一のトラブル発生時には、「即日対応」をモットーに、サービススタッフが直ちに関与します。



コンサルティング メニュー提案・調理デモなど

ホシザキの製品を使用した調理実演やメニューの提案、衛生管理のアドバイスなどをおこない、お客様の課題解決をサポートし、お客様にさらなる付加価値を提供しています。

ホシザキグループの経営理念

私たちは健全な企業経営をおこなう真のグローバル企業へ成長するため、以下の経営理念を掲げています。

存在意義

私たちホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客さまのみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

経営姿勢

良い製品は良い環境から

遵法はもとより社会と社員から信頼される会社づくり

透明性のある経営議論のできる経営の実践

事業活動と環境との調和働きやすい職場環境の実現

行動規範

仲良く楽しく

自らの責務を全うし仲良く楽しく仕事ができるよう実現しよう

極限への挑戦

現状を打破し失敗を恐れず常に新しいものを創造していく姿勢を大切にしよう

顧客満足の創出

常に顧客の立場にたって考えよう

ホシザキグループの社会・環境活動

経営理念のもと、ホシザキグループの社会・環境活動基本方針、ISO9001品質方針、ISO14001環境方針を掲げ、社会・環境活動に取り組んでいます。

社会・環境活動基本方針

ホシザキグループは、パートナーの協力を得ながら、以下の方針に基づいた社会・環境活動を推進します。

- ① 安全・安心かつ豊かな食環境の整備に尽力します。
- ② 環境性・省エネ性に優れたモノづくりに挑戦し続けます。
- ③ 地域社会との対話・交流を推進します。
- ④ 法令遵守と適時適正な情報開示を推進します。
- ⑤ 野生動植物の保護繁殖に関する自然環境保護活動を応援します。

ISO9001 品質方針

ホシザキは、顧客に安心を提供し、世界に誇る品質を維持し、改善します。

① 顧客ニーズ、法規制などの要求事項を満たす商品の提供

② 効果的な品質マネジメントシステムへの継続的改善

③ 全員参加による品質目標の達成

ISO14001 環境方針

ホシザキは、当社経営理念である「良い製品は良い環境から」のもと、緑豊かな工場環境の整備につとめるとともに、地球レベルでの環境保全が人類共通の最優先課題の一つであることを認識し、環境と調和した持続的発展が可能な事業活動を目指します。

① 当社は、製氷機、冷蔵庫、食器洗浄機、ディスペンサをはじめとするフードサービス機器の開発、製造をおこなうメーカーとして、その事業活動にかかわる環境への影響を認識するとともに、環境パフォーマンスを含む環境マネジメントシステムの継続的な改善に取り組む体制を整備し、汚染の予防につとめます。

② 当社の環境側面に適用可能な順守義務を満たすことはもとより、自主管理基準を設定し、環境管理レベルの向上につとめます。

③ 当社の事業活動にともなう環境影響のうち、特に次の事項を重点課題として取り組みます。

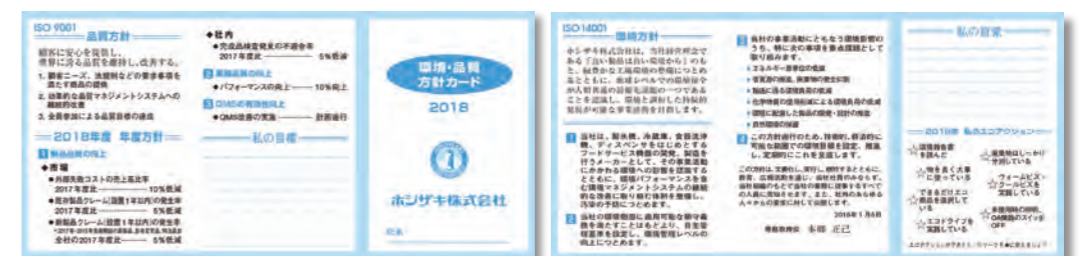
- エネルギー単位の低減
- 省資源の推進、廃棄物の発生抑制
- 輸送に係る環境負荷の低減
- 化学物質の使用削減、管理レベルの向上
- 環境に配慮した製品の開発・設計の推進
- 自然環境の保護

④ この方針遂行のため、技術的、経済的に可能な範囲での環境目標を設定、推進し、定期的にこれを見直します。

この方針は、文書化し、実行し、維持するとともに、教育、広報活動を通じ、当社社員のみならず、当社組織のもとで当社の業務に従事するすべての人員に周知させます。また、社外のあらゆる人々からの要求に対して公開します。

環境・品質方針カード

ホシザキのISO14001および14001の認証事業場に在籍する社員には、環境方針や品質方針が記された「環境・品質方針カード」が配付されます。このカードを常に携帯することで、品質および環境マネジメントシステムに対する意識の向上を図っています。



環境・品質方針カード

グローバルでの 環境配慮型製品の開発

ホシザキグループでは、各国の環境法規制を遵守しつつ、エネルギー使用量の削減を実現した省エネ製品のリリースや地球温暖化係数が低い断熱材や冷媒の使用など、環境に配慮した製品の開発を進め、地球温暖化対策に貢献しています。

日本

日本では、2013年のエネルギー使用の合理化に関する法律の改正・施行に伴い、業務用冷蔵庫もトップランナー^(※1)制度の対象となりました。

業務用冷蔵庫

ホシザキの業務用冷蔵庫は、2011年にすでにトップランナー基準をクリアしていましたが、お客様の省エネに対する意識の高まりに応えるために、継続的に省エネ性能向上に取り組んでいます。2018年にはタテ形Aシリーズなどのモデルチェンジをおこないました。

今回のモデルチェンジでは、庫内容積に影響を与えない範囲での断熱厚みの増加や新規のパッキンを採用することで、保冷性能が向上しました。

さらに、庫内の温度に影響する霜取り方法については、周囲温度、設定温度、扉の開閉状況などから自動で選択するヒーター式/オフサイクル式自動選択方式を新規に採用し、庫内の温度上昇によるエネルギーロスを抑制しました。

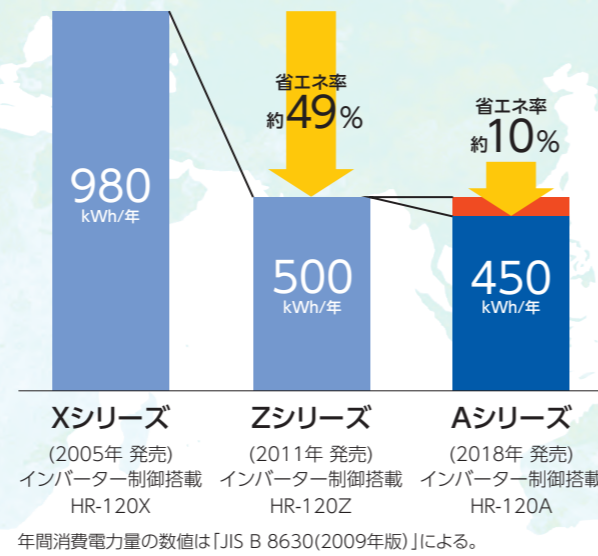
また従来通り断熱には、地球温暖化係数^(※2)が低いシクロペンタン、HFO(ハイドロフルオロオレフィン)を採用しています。



業務用冷蔵庫 Aシリーズ

フィルターランプ

年間消費電力量の比較



お客様によりエコにご使用いただくため、タテ形業務用冷蔵庫では業界初となる、フロントパネルを開けなくてもフィルターを取り外せる構造としました。また、フィルターの清掃のタイミングをお知らせするフィルターランプも採用し、お客様の使いやすさを追求しました。

※1 トップランナーとは、自動車の燃費基準や電気・ガス石油機器(家電・OA機器等)などのエネルギー消費効率を、現在商品化されている製品のうち、最もすぐれている機器の性能以上にするという考え方。
 ※2 CO₂を基準に、温室効果ガスがどのくらい温暖化する能力があるかを表した数値。数値がゼロに近いほど温暖化する能力は低くなる。

北米

北米では、米国エネルギー省(DOE)、カナダ天然資源省(NRCan)により省エネに関する基準が定められています。また、2015年8月より米国大気浄化法の改正に基づき、オゾン層の破壊や地球温暖化に悪影響のある物質を使用した機器の製造を禁止する取り組みが段階的に進められています。

製氷機

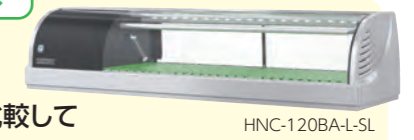
従来機と比較して
年間消費電力量 **14%削減**
年間水使用量 **32%削減**
(当社基準による)



KM-300BAJ

ネタケース

従来機と比較して
年間消費電力量 **29~43%削減**
(当社基準による)



HNC-120BA-L-SL

ホシザキアメリカが新規に開発した高効率蒸発器や高効率コンプレッサを採用するとともに、凝縮器や冷媒量の見直しなどの冷凍回路最適化により年間消費電力量を削減しました。また、飛散する水を効率良く回収する構造(新規セパレータ)の開発により水使用量を削減しました。

フロンに替わる冷媒として、よりエネルギー消費効率にすぐれるイソブタン(R600a)を採用しました。庫内の容積ごとに最適な冷却能力を持つ高効率なコンプレッサを採用し、冷凍回路の最適化を図りました。

欧州

欧州では、Fガス規制により、2022年に代替フロン冷媒を使用する機器の販売が禁止されるなど、ノンフロン化への要請が強まっています。

業務用冷蔵庫

従来機と比較して
年間消費電力量 **14~62%削減**(シリーズごと)
(当社基準による)



SuperiorPlusK72G

製氷機

従来機と比較して
年間消費電力量 **10~29%削減**
(当社基準による)



IM-100NE-130NE

GRAM COMMERCIAL A/S(デンマーク)の業務用冷蔵庫は、断熱厚みの増加、高効率コンプレッサの採用、庫内風まわりの改善、霜取り排水のヒーターによる加熱蒸発からポンプ排水への変更などにより、従来製品と比較して大幅な省エネを実現しました。これらの改善により、2017年のProCold^(※3)のタテ形冷蔵庫部門でヨーロッパ大賞最優秀賞を受賞しました。



ヨーロッパ大賞
最優秀賞

HOSHIZAKI EUROPE LTD(英国)で生産している製氷機IMシリーズ12モデル、FMシリーズ6モデルにおいて開発が完了しました。

フロンに替わる冷媒として、プロパン(R290)を採用。IEC規格^(※4)の可燃性冷媒量の規制値150g以下をクリアしつつ、エネルギー消費効率にすぐれた冷媒を効果的に循環・熱交換できる冷凍回路を開発・設計しました。

※3 EU内での家電製品や冷凍冷蔵のエネルギー効率化を推進するプロジェクト。
 ※4 国際電気標準会議。電気および電子技術分野の国際規格の作成をおこなう国際標準化機関で、各国の代表的標準化機関から構成されている。

災害発生時の お客様・地域支援

大規模な災害発生時には、ホシザキグループの力を結集し、お客様の店舗の復旧を全面的に支援します。その他にも、災害支援者への製氷機の貸し出しや被災地への義援金の寄付などおこなっています。
以下では2018年6～7月に西日本で発生した「平成30年7月豪雨」に対する取り組みをご紹介します。

お客様の店舗の復旧を迅速に支援

国内販売会社によるサポート体制

2018年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に広い範囲で集中豪雨となり、甚大な被害が発生しました（「平成30年7月豪雨」）。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

ホシザキグループでは、初動対応として、大雨特別警報が解除された翌日の7月9日より、被災地にある国内販売会社（ホシザキ中国、ホシザキ四国）の社員やその家族の安否を確認するとともに、お客様の店舗周辺の被災状況およびライフラインの状況を把握しました。

それらの情報をもとに、全国の国内販売会社10社から34名のサービスマンが応援にかけつけ、お客様からの修理依頼に迅速に対応しました。自社製品だけでなく、他社製品の修復や洗浄など店舗の復旧をサポートしました。

「平成30年7月豪雨」において
支援に携わった国内販売会社と
かけつけたサービスマンの人数
(7月11日～7月27日の間)



広島県呉市の状況



ホシザキ四国大洲営業所（愛媛県）の被災の状況



災害対応ミーティング

お客様の製品の修理の流れ

お客様との面談で、電気や水などの復旧時期などを確認し、復旧作業の計画を立てます。

復旧作業はまず製品を洗浄可能な場所に移動し、洗浄・乾燥します。その後、再設置し、故障診断をおこないます。故障がある場合は修理し、試運転を経て復旧となります。



豪雨被害を受けた製品の復旧作業



洗浄作業

災害支援者や被災地の支援

ホシザキ製品を通じて災害支援者をサポート

災害復旧に携わる支援者の熱中症防止を目的として、ホシザキから広島県呉市、岡山県倉敷市および愛媛県大洲市へ製氷機8台を無償で貸与しました。貸出先からは「連日の猛暑で本格的な復旧作業が続く中、作業に関わる支援者の命を守る貴重な機械・氷を提供いただき、有難い限りで助かります。」とのお言葉をいただきました。



呉市役所に貸し出した製氷機 (IM-95M-1)

「平成30年7月豪雨」における製氷機の貸し出し先

被災地区	貸し出し先	機種
広島県呉市	呉市役所	IM-95M-1
	天応市民センター	
岡山県倉敷市 真備町	園小学校	IM-95M-1
	吉備路クリーンセンター	
	岡田小学校	
愛媛県大洲市	肱川公民館	IM-55M-1
	新谷公民館	IM-25M-1
	菅田小学校	

義援金の寄付

ホシザキ国内グループ社員・役員の有志で組織するホシザキチャリティクラブ(HCC)から広島県、岡山県、愛媛県に各50万円を寄付しました。



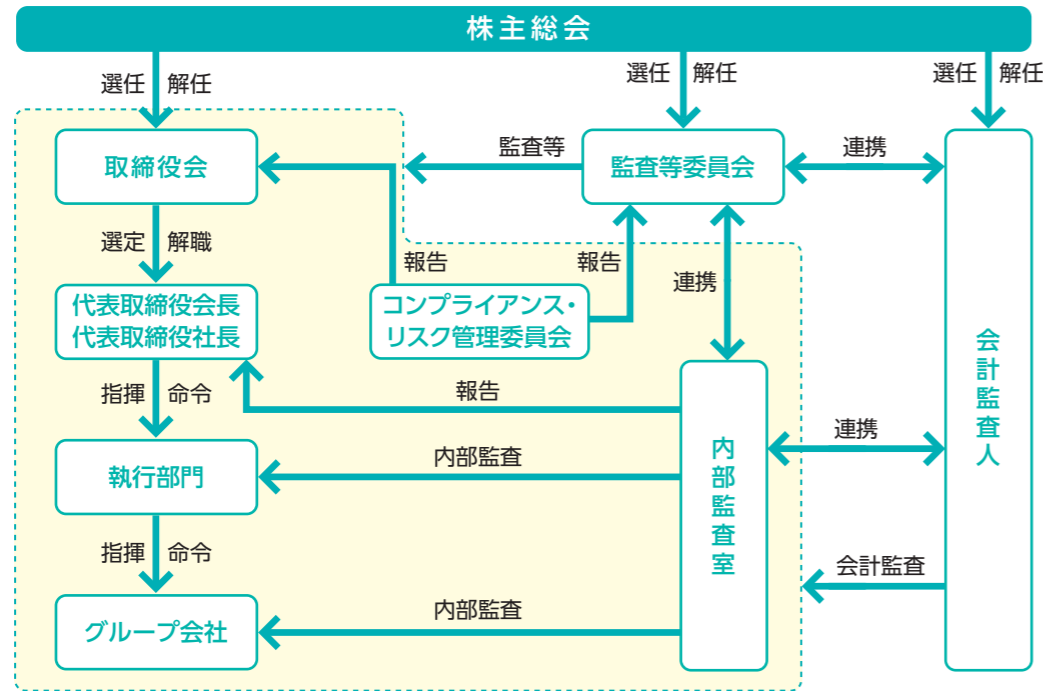
災害の爪痕は深く、完全な復興には多くの時間が必要ですが、社員一同団結して支援につとめてまいります。



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

ホシザキは、経営の透明性、効率性の向上を図るため、株主をはじめとするステークホルダーの立場にたつて企業収益、価値の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針およびその目的としています。



コンプライアンス

コンプライアンス基本方針

ホシザキグループは、コンプライアンス基本方針を以下のとおり定めております。

私たちホシザキグループは

1. 食環境に関わる企業グループが持つ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からのゆるぎない信頼の確立を図っていきます。
2. 正確な情報(商品情報・企業情報)の積極的かつ公正な開示に努め、広く社会とのコミュニケーションを図り、社会から評価が得られる透明性のある経営に徹していきます。
3. 法令やルールを厳格に遵守し、社会規範に反することのない誠実かつ公正な企業活動を遂行していきます。
4. 国際社会に通用する高い倫理観を備えた良き市民として使命感を持ち、内外の経済・社会の発展に貢献していきます。
5. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては断固とした姿勢で臨み、決して妥協はいたしません。

コーポレート・ガバナンスに関する取り組み

ホシザキは、東京証券取引所が2015年6月1日に定めた「コーポレートガバナンス・コード」の各原則についての対応をおこなっています。取り組み内容の一部は、コーポレート・ガバナンス報告書に記載し、当社ウェブサイトにて公表しています。

コーポレート・ガバナンス報告書 <http://www.hoshizaki.co.jp/ir/management/pdf/governance.pdf>

コーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役会

取締役会は、監査等委員である取締役を除く取締役10名(2018年12月現在)、監査等委員である取締役3名で構成し、監査等委員会(常勤の監査等委員である取締役1名、監査等委員である社外取締役2名(内1名女性))を設置しています。

取締役会は、毎月定期的開催され、経営に関する意思決定機関として、グループ全体の経営方針・経営戦略の立案と業務執行の監視・監督をおこなっています。取締役は、いずれも当社グループ事業に精通しており、取締役会での慎重な議論を経て事業経営に関する迅速かつ正確な経営判断をおこなっています。

監査等委員会

監査等委員会は、十分な社内知識を有する監査等委員1名と社外での豊富な経験・知識を有する社外取締役である監査等委員2名が活発な意見交換をおこない、公正に取締役の職務執行を監査、監督しています。

コンプライアンス・リスク管理委員会

ホシザキは、代表取締役社長を委員長として選任し、取締役および関係者を構成員とした「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況を管理し、リスク管理の全体的推進とリスク管理に必要な情報の共有化を図り、リスクへの迅速な対応とリスク顕在化の回避および軽減策などの決定をおこなっています。

内部通報制度

ホシザキグループは、役員および社員が、会社において法令違反行為、不正行為、ハラスメントがおこなわれている、もしくはおこなわれようとしていることを知った場合、コンプライアンスおよびリスク管理の問題発生に対する相談・申告などをするための体制として、内部通報制度を構築し、運用しています。また、社内のほか、社外にも通報先を設置しています。

コンプライアンス研修

ホシザキグループで遵守すべきコンプライアンスの基本を掲載した「ホシザキコンプライアンスハンドブック」をもとに、全社員に、年1回、コンプライアンス研修を受講させております。

国内グループ会社における不適切な取引等の発覚を重く受け止め、コンプライアンス研修がより実効的なものとなるように、研修内容の充実を図り、コンプライアンスに対する意識改革の徹底を推進し、再発防止に取り組んでまいります。



コンプライアンスハンドブック

研修の様子

投資家との関わり

投資家の皆様と中長期的な信頼関係を構築するために、業績や財務情報などを正確にお伝えし、積極的なコミュニケーションを推進しています。

IR基本方針および情報開示の方法

ホシザキグループは、株主や投資家の皆様に対して、公平かつタイムリーにホシザキグループの情報をお知らせするためにIR活動をおこなっています。

ホシザキグループの業績や財務情報、経営戦略、事業内容に関わる情報などを正確にお伝えすることによって透明性の高い経営を実現し、株主や投資家の皆様との中長期的な

※適時開示情報伝達システム(Timely Disclosure network)。

信頼関係を築いていくことを目指しています。

ホシザキグループが公表する情報は、Tdnet(※)への登録およびホシザキグループのIRサイトでの掲載などの方法によって開示し、公平性につとめるとともに、適時開示規則に該当しない情報についても、その趣旨に沿って適切な方法による開示をおこなっています。

機関投資家とのコミュニケーション

代表取締役社長が当社業績(実績、予想)および経営戦略など、各種取り組みについて直接説明する場として、決算説明会を年2回(上半期、期末)実施しています。加えて四半期ごとに経営陣およびIR担当(経理部企画課)より個別ミーティ

ングを実施し、証券会社主催の各種説明会にも出席しています。

また、ホシザキへ来訪いただいた方には工場見学も開催させていただいており、国内外の投資家の皆様に対するコミュニケーションの充実に取り組んでいます。

個人投資家とのコミュニケーション

代表取締役会長が個人投資家の皆様に対して、より深くホシザキグループをご理解いただくために、各証券会社(支店など)にて説明会を実施しています。東京、大阪、名古屋地区のほか、地方での説明会も積極的に実施しています。



個人投資家向け説明会

主なIR活動実績

活動	2016年	2017年	2018年
決算説明会	2回	2回	2回
個別ミーティングをおこなった国内機関投資家数	126名	147名	106名
個別ミーティングをおこなった海外機関投資家数	194名	184名	112名
国内証券会社主催カンファレンス出席	2回	2回	2回
個人投資家向け説明会	3回	3回	4回

お客様との関わり

お客様のご期待と信頼に応える製品やサービスを提供するため、品質保証やサービス・サポート体制を構築し、お客様の声にも耳を傾け、日々改善の取り組みを推進しています。

品質保証体制

ホシザキは品質の国際規格ISO9001を全工場を取得しており、品質方針においてお客様に安心を提供する姿勢を明確にし、品質レベルの維持、改善に取り組んでいます。品質マネジメントシステムに基づき、製品開発段階から工場での製造、出荷に至る全てのプロセスで厳重な品質チェックをおこなう仕組みを構築しています。

製品開発段階では、過酷な使用環境を想定した各種試験を繰り返しおこない、これらの試験に合格した技術や部品のみを採用し製品化しています。工場での生産ラインでは、各工程において作業員一人一人が品質チェックをおこない、完成した製品については、資格認定を受けた検査員が一台一台細かなチェックをおこなっています。このように、最終検査に合格した製品のみが市場に出荷される仕組みとなっています。

また、市場からのクレームに対しては、その原因を徹底的に追求し、次の製品開発や製品改良に反映させています。

サービス・サポート体制

ホシザキグループでは、お客様にとって最も重要な機能として、サービス・サポート体制に力を入れています。サービスにあたるのは全国各地に展開する15の販売会社、443カ所の営業所です(2018年12月末現在)。

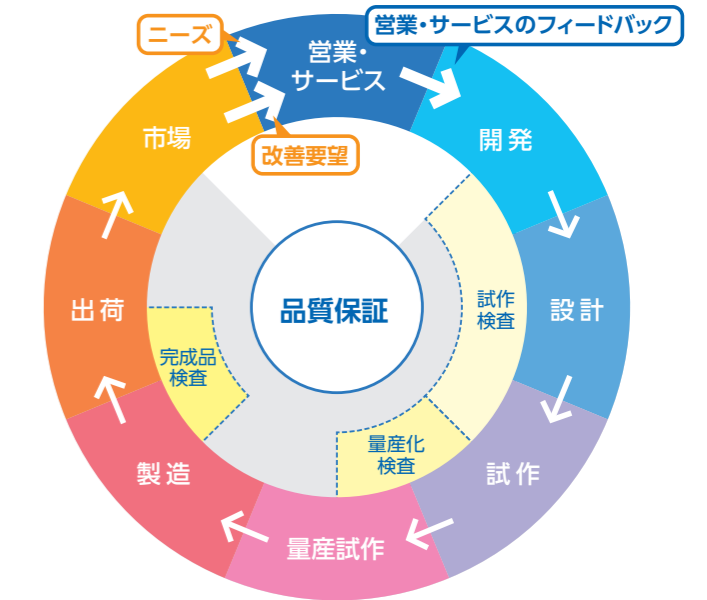
この体制により、万が一のトラブル発生時、直ちにサービススタッフが訪問し、対処しています。そして多くのお客様にご加入いただいているメンテナンス契約の定期訪問を通じて、お客様へのきめ細やかなサポートを実現しています。

また、サービススタッフの訪問の際に頂戴するお客様の声は、販売や製品開発スタッフへ適時フィードバックし、最新の製品提案や今後の新製品開発へ反映させ、お客様の困りごとの解決につとめています。

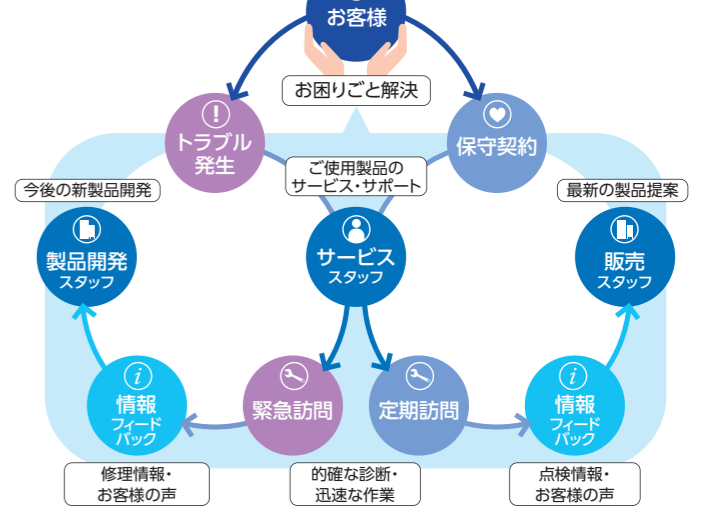
顧客満足度調査の実施

ホシザキグループでは、顧客サービスの向上を目的として、定期的に顧客満足度調査を実施しています。お客様からいただいた貴重なご意見は、収集・分析の後、共有しています。2018年度は、①営業担当者、②サービス担当者、③商品、④ホシザキ全般についての質問に対し、約2,500名のお客様

製品開発と品質保証の連携



サービス・サポート体制



からご回答いただきました。また、総合満足度では約70%のお客様から満足との評価をいただきました。一方では厳しいご意見をいただいた内容もありますが、当社グループの重要課題と捉え、業績改善につなげています。



ホシザキは、地域社会の一員として皆様に信頼される存在となるよう、社会貢献活動を推進しています。また、自然環境保護活動の一環として、公益財団法人ホシザキグリーン財団の活動を応援しています。

スペシャルオリンピックスの支援活動

スペシャルオリンピックス日本(以下SON)は、知的障害のある人たちに、さまざまなスポーツを楽しむ機会を提供する活動をおこなっている全国組織です。

ホシザキはこのSONの活動主旨に賛同し、主として工場のある愛知県と島根県の組織を支援しています。例えば、SON・愛知に対し、2018年9月に開催された全国大会のための資金援助をおこないました。また、SON・島根については、組織設立の段階から支援し、現在も多くの社員が個人会員となり、ボランティアとして地域のイベントに参加しています。



イベントに参加した社員

ホシザキチャリティクラブを通じた寄付活動

ホシザキチャリティクラブ(以下HCC)は2012年2月に設立され、現在、国内グループ会社の社員の70%以上が会員となっています。会員の給与および賞与の100円未満を拠出し、自然環境保護や社会福祉・教育支援、自然災害復興支援などを毎年おこなっています。

ホシザキ国内グループ社員・役員約8,000名とその家族の中には、地域のNPO法人などの活動に携わっている者も多数おり、HCCは、このような社員参画型の団体の支援や、高い理念を掲げ社会貢献をおこなっているものの、活動資金が潤沢とはいえない団体の支援もおこなっています。2018年度は9月の全国大会に出場するSON・島根の選手にユニフォームを贈呈しました。



ユニフォームの贈呈式

奨学生への支援活動

ホシザキの代表取締役会長の坂本が代表をつとめる坂本ドネーションファウンデーションが、給付型奨学金「ホシザキ奨学金」制度を創設し、将来ものづくりに携わることが希望する学生を支援しています。具体的には、名古屋大学および名古屋工業大学の大学生・大学院生に対して奨学金を給付しています。

奨学金を受給している学生に、製造現場に触れる機会を提供することを目的として、ホシザキでは毎年、工場見学を開催しており、2018年度は8月にホシザキ奨学生3期生のうち17名が来社しました。機械工場・業冷工場の見学後、坂本が開発者としての心構えについて講話をしました。



ショールーム見学

ホシザキグリーン財団の自然環境保護活動

ホシザキグリーン財団とは

ホシザキグリーン財団は、ふるさとの自然を継承したいという創業者の想いから、1990年に設立されました。財団の活動拠点は、島根県松江市と出雲市にまたがる宍道湖の西岸にあります。財団の施設には、「ホシザキ野生生物研究所」、「ふるさと

尺の内公園」、「宍道湖グリーンパーク」があり、指定管理者として島根県立の施設である「宍道湖自然館ゴビウス」の管理運営をしています。財団の事業は、環境整備、調査研究、普及啓発があり、それらに情報収集や発信が伴います。



ホシザキ野生生物研究所 研究報告会

ホシザキ野生生物研究所研究報告会は、一般の方々に向けて財団の研究成果を紹介することを目的として2013年より開催されています。毎年紹介する研究テーマや内容を変えるなどの工夫により、2018年は過去最高の144名の参加がありました。

2018年は、島根県に生息するアリの研究成果などを報告しました。近年、日本ではヒアリやアルゼンチンアリなど外来のアリが問題となっており、人が噛まれるなどの被害だけでなく、生態系への影響も心配されています。島根県ではまだ問題になっていませんが、在来のアリの生息状況を把握する

ことは、外来種の侵入に対する備えになります。

過去の記録や野外での観察から、島根県には82種のアリが生息していることが判明しました。同時に未発見の種がいる可能性も示唆されました。アリを通じて島根の自然の豊かさをあらためて実感する機会となりました。



絶滅危惧種のトゲアリ



研究報告会の様子

ホシザキの支援活動

2018年は、ホシザキの社員が、「ふるさと尺の内公園」の管理棟の屋上緑化の植栽作業に参加しました。「ふるさと尺の内公園」は、野鳥、昆虫、草花など、身近な自然に親しむことができる場所です。

今後も、公園のさらなる魅力向上に協力していきます。



植栽作業



ホシザキグループは、全ての人材が個々の能力を最大限発揮し、意欲とやりがいを持って働くことができるよう人材育成支援制度の充実などの環境整備を図っています。

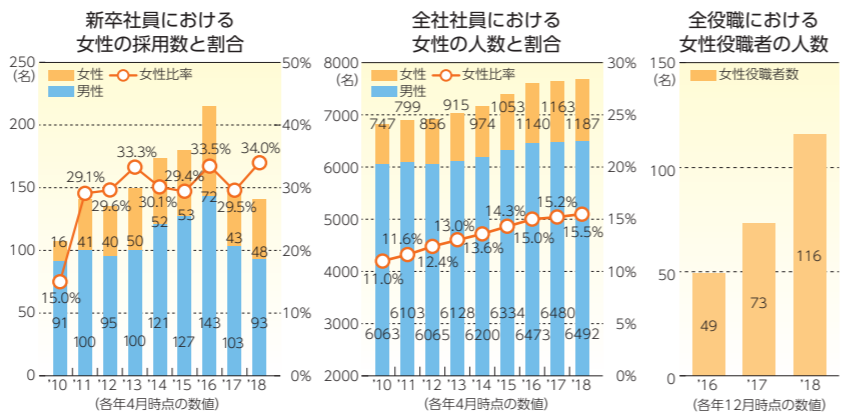
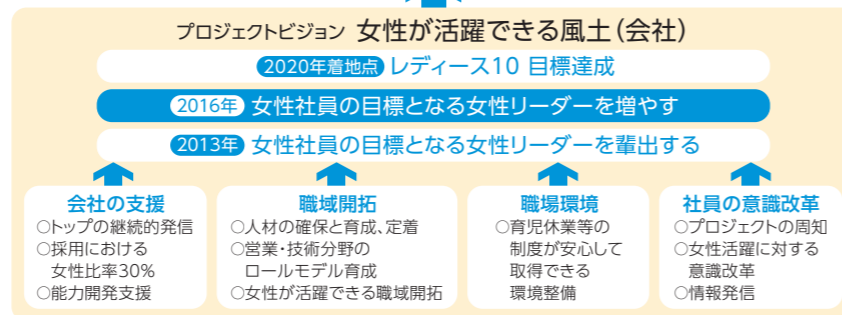
女性が活躍する職場環境作り

女性活躍推進「かがやきプロジェクト」の活動

「男性、女性にかかわらず優秀な人材が働きやすく活躍できる会社」を目指し、2010年に「かがやきプロジェクト」が発足しました。プロジェクトでは係長職以上における女性を10%以上にするという具体的な目標「レディース10」を掲げ、女性のキャリアアップ支援をおこなうとともに、働きやすい環境作りに取り組んでいます。

プロジェクト発足以降、新卒採用における女性比率は、毎年約3割を達成しています。また、出産や育児のライフイベントを迎えた女性が働き続けるための環境整備により、女性社員比率は年々増加しています。係長職以上の女性役職者は2018年12月時点で116名であり、2020年には目標の10%以上を達成する見込みです。

男性・女性にかかわらず優秀な人材(社員)が、働きやすく活躍できる会社

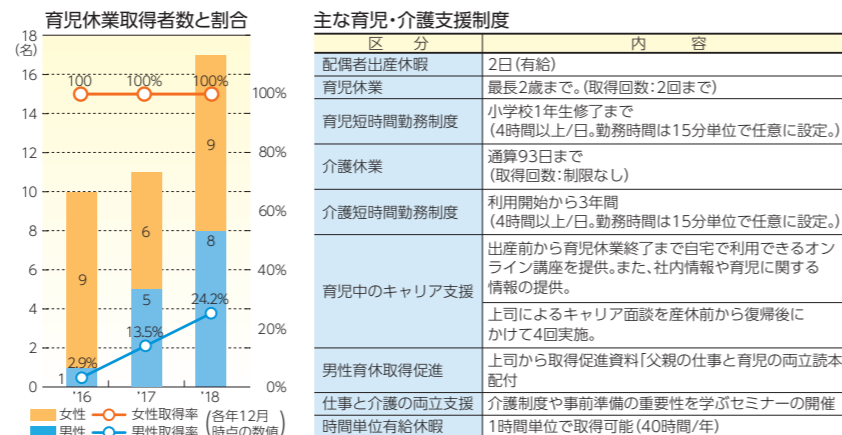


働きやすい職場を目指して

両立支援制度

ホシザキでは育児や介護のためのさまざまな制度を導入するとともに、取得しやすい環境を整備し、家庭と仕事の両立を積極的に支援しています。また、育児休業中に利用できるオンライン講座の提供やキャリア面談の実施など、キャリアアップできるための施策を展開しています。その結果、女性の育児休業取得率は100%に達し、近年は男性育児休業取得者も増加しています。

今後も継続して制度の整備・拡充を図り、社員のワーク・ライフ・バランスをサポートしていきます。



法律に基づく優良企業認定

ホシザキグループでは、「次世代育成マーク(愛称:くるみんマーク)」は18社中17社(内、5社は次世代特例認定マーク(愛称:プラチナくるみんマーク)取得)、「女性活躍推進マーク(愛称:えるぼしマーク)」は18社中2社が優良企業として認定を受けています。引き続き、国内グループ全社認定を目指していきます。



社員満足度調査の活用

社員満足度の向上に向けて職場環境と業務の改善を図るために、2006年からホシザキグループ全社員を対象に社員満足度調査を毎年実施しています。アンケートでは、「会社について」、「職場環境」、「上司や仕事について」、「ハラスメント」および「人事評価」の質問に5点満点で回答します。データをグループ会社別、職場別に集計し、社員満足度の高い会社

には表彰をおこなっています。

また、この調査結果はグループ各社にフィードバックされ、各社は次年度の活動内容を検討し、目標を立てて実行していきます。社員満足度のポイントは着実に上昇しており、社員がより働きやすい職場環境へと改善されています。

人材の育成

グローバル人材の創出

ホシザキグループは「フードサービス機器業界 売上高 世界 No.1」を確固たるものとするべく、積極的な海外進出を進めています。2020年経営ビジョンでは「海外売上高比率50%」を目指しており、今後より一層加速するグローバル化に対応すべく、海外で活躍できる人材の育成を強化しています。

以下のプログラムの修了者の多くが、各国のグループ会社

の主要ポジションで活躍しています。また近年は外国人の採用も増加しており、彼らは国内外においてグローバルに活躍しています。

今後もグループの持続的な成長・発展のために、世界で積極的にチャレンジできる人材の確保に力を入れていきます。

グローバル人材育成プログラム

語学力強化

- ・語学研修(基礎～応用まで)
- ・海外グループ会社での短期研修
- ・アメリカ語学学校への短期留学

ビジネススキル強化

- ・駐在者に必要な会社機能の幅広いスキル習得の研修
- ・国別の留意点・現地の慣習習得の研修



グローバル人材育成プログラム

サービス研修

ホシザキグループでは、2017年に完成したホシザキ研修センターにおいて、お客様に提供するサービスの品質および技術力向上に向けて、そのサービスの知識と技能を向上させる研修をおこなっています。

新入社員向けの主力製品を中心とした新人研修やベテラン社員向けの専門機種研修など、さまざまな研修をおこなって

おり、2018年度は約180名を対象に研修を実施しました。

特に新入社員向けの研修では、製品知識だけでなく、マナー研修など社会人としての基礎的な知識はもちろん、保守点検作業を想定したロールプレイング研修など、実践に近いかたちで研修をおこない、総合的な人材育成を目指しています。

管理職のマネジメント力・コンプライアンス意識の向上

ホシザキグループでは、管理職を対象に360度評価を毎年実施しています。対象者は、上司、同僚、部下など複数の関係者から評価され、その結果は本人へフィードバックされます。対象

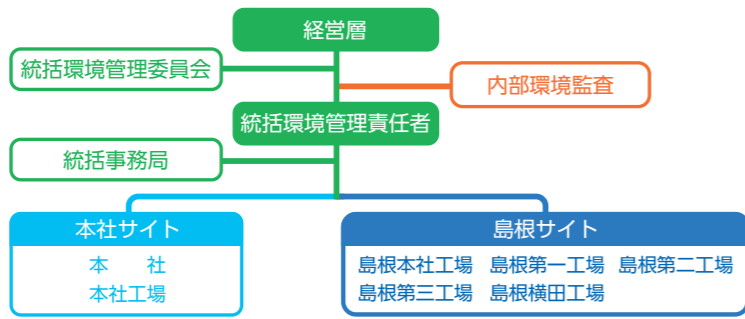
者に自己評価と関係者からの評価の違いを認識させ、行動改善を促すことで、マネジメント力およびコンプライアンス意識の向上につなげています。

環境マネジメントシステム推進組織体制、環境目標と実績、マテリアルフロー

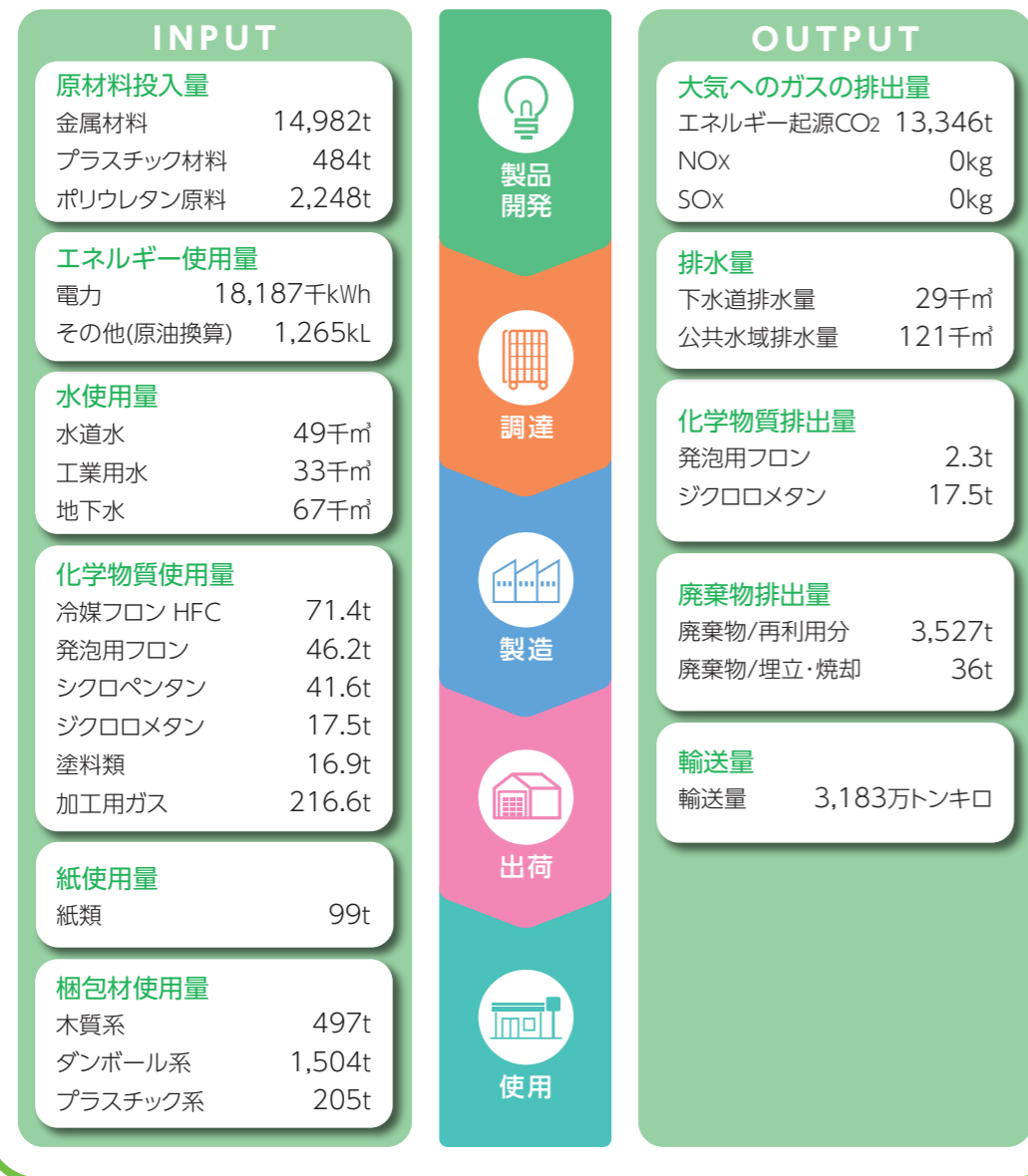


環境マネジメントシステム推進組織体制

ホシザキでは、全工場の全部門が環境改善活動に参画する体制を構築しています。当社全体の目標から、サイト全体と部門の各階層における中期3カ年の改善目標を設定し、毎年具体的な手段を明確にした2か月ごとの実施計画を策定して改善活動を推進しています。



マテリアルフロー



環境目標と実績

○…達成 ▲…一部未達成 ✕…未達成

	2018年度目標	実績	コメント	2019年度目標
省エネルギー	エネルギー消費原単位 2013年度比5%低減	○	生産性の向上、省エネ設備の導入など、さまざまな活動を積み重ね、目標を達成することができました。	エネルギー消費原単位 2013年度比 6%低減
廃棄物の発生抑制	金属作業屑の歩留まり率 2008年度比4.4~8.0ポイント向上 2012年度比0.75ポイント向上 2013年度比2.5ポイント向上 (部門ごとに目標値を設定)	○	生産性向上活動と合わせて各部門で施策を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	金属作業屑の歩留まり率 部門ごと、工程ごとに 目標値を設定
	プラスチック材料作業屑の歩留まり率 2008年度比4.5~12.0ポイント低減 (部門ごとに目標値を設定)	○	生産性向上活動と合わせて各部門で施策を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	プラスチック材料作業屑の 歩留まり率 部門ごとに目標値を設定
	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、発生原因別に 目標値を設定	○	生産性向上活動と合わせて各部門で施策を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、 発生原因別に目標値を設定
輸送時の負荷低減	才数(積載率)の向上 2012年度比2.0ポイント向上	○	製品輸送トラックの積載率目標値を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	才数(積載率)の向上 部門ごとに目標値を設定
フロン	発泡用:一部製品で低GWP(*)の 発泡剤へ切り替え実施 冷媒用:低GWP(*)冷媒化に 向けての研究	▲	発泡用:遅れが生じました。 冷媒用:実施完了しました。	発泡用:一部製品の低GWP(*) 発泡剤の切り替え実施 冷媒用:低GWP(*)冷媒化に 向けての研究
製品開発	テーブル形冷蔵庫、タテ形恒温高湿庫、 ショーケースのさらなる省エネ化	▲	テーブル形冷蔵庫やタテ形恒温高湿庫については、冷凍機の運転制御や本体構造の見直しを図り、さらなる省エネ化を達成しましたが、ショーケースについては小型タイプで遅れが生じました。	トッランナー対応製品の モデルチェンジなどを目標に設定
ゼロエミッション (リサイクル率99%以上)	ゼロエミッションの達成 (各サイトでリサイクル率99%以上)	▲	島根サイトでリサイクル率99%以上を達成できませんでした。	ゼロエミッションの達成 (各サイトで リサイクル率99%以上)
自然環境の保護	ホシザキグリーン財団のおこなう 保護活動への協力と参加	○	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動へ参加協力しました。	ホシザキグリーン財団のおこなう 保護活動への 協力と参加

*地球温暖化係数(GWP)が低いこと。地球温暖化係数は、CO₂を基準に、温室効果ガスがどのくらい温暖化する能力があるかを表した数字。

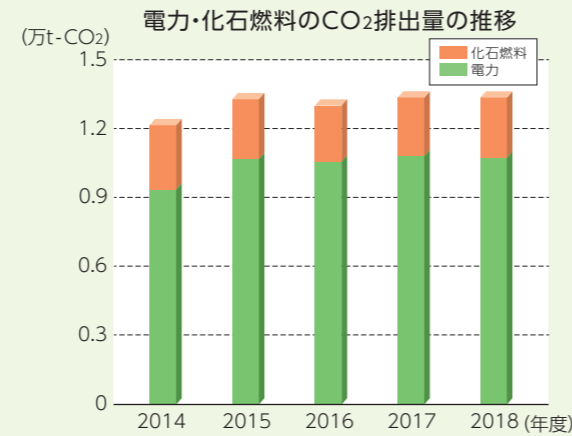


2018年度の総括

ホシザキでは、事業に伴い排出するエネルギー起源のCO₂を削減するため、省エネ設備の導入や業務効率化などを通じ、製造部門、間接部門ともに生産性の向上に積極的に取り組んできました。

その結果、2018年度のCO₂排出量は、13,346tで前年比99.6%となりました。

引き続き、生産工程や生産設備の見直しや省エネ設備の導入、業務の効率化などを推進し、CO₂排出量の削減につとめてまいります。



2018年度の総括

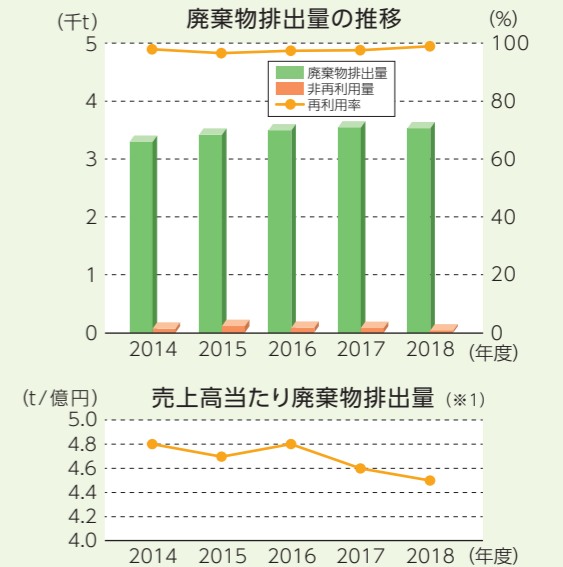
2018年度も金属材料の歩留まり向上や、製造工程での不良削減活動などを積極的に推進した結果、廃棄物排出量は前年度3,548tに対して3,527tで前年比99.4%となりました。

また、売上高当たりの廃棄物量(指標)(※1)についても、前年度と比べ減少させることができました。

さらに、再利用率についても、廃棄物の分別や再利用の促進を図ることで、2018年度は前年度の97.8%を上回る98.9%となりました。

引き続き、廃棄物の発生抑制を促進するとともに、再利用率の一層の向上につとめてまいります。

※1 廃棄物排出量(t)を売上高(億円)で割って算出した数値。



射出成形機更新による省エネ

ホシザキの製品は、製氷機の部品をはじめ、食器洗浄機の内部にあるラックなど、数多くのプラスチック成形品を使用しており、その多くを社内の射出成形機で加工成形しています。

島根工場では、2018年10月に、射出成形機1台を油圧式からサーボモータ式に更新し、大幅な省エネを実現することができました。従来の油圧式では、常時、油圧ポンプが稼働し電力を消費するのに対し、サーボモータ式では必要な時、必要な箇所のみサーボモータが動作するため、エネルギーロスが少なく、現行の消費電力量の約50%で稼働することが可能です。年間の消費電力量に換算すると、約160,000kWhの削減が見込まれます。

また、更新した設備は、省エネのみならず、省資源にも貢献しました。例えば、使用していた油圧作動油約1,400L(ドラム缶約7本分)が不要となりました。さらに、成形の安定性も高まり、不良部品の発生抑制にもつながりました。

これらの環境負荷低減に加えて、装置の動作速度が改善されたことにより、生産性向上にも寄与しています。

今後も、省エネ設備の導入を推進し、環境負荷低減に取り組んでまいります。

射出成形機



射出成形機で加工したおもなもの



製氷機内のストッカー (氷を保管する場所)

食器洗浄機内のラック

歩留まり向上による廃棄物の発生抑制

ホシザキでは、製造工程において、金属材料の歩留まりを向上させる活動を推進しています。歩留まりとは、使用する金属材料の投入量に対する生産量の割合のことで、歩留まり率が高いほど材料のロスが少なくなります。

本活動は、廃棄物の発生抑制のみならず、材料費の抑制にもつながり、昨今の鋼板価格の高騰への対策にもなります。本社工場では、金属材料の歩留まり率を前年度より2.0ポイント向上させることを目標として取り組みを開始いたしました。

具体的には、生産量が多く、歩留まりの改善が見込める材料を対象に、おもに以下の3つの取り組みを実施しました。

- ① 定尺材(※2)から、加工品の寸法に適した材料(スケッチ材)への切り替え
- ② 他の部品に使用しているスケッチ材の中からサイズの合うものを選定・適用
- ③ タレットパンチプレス(※3)の加工品取数の最適化

以上の取り組みの結果、2018年度の本社工場の歩留まりは前年度比4.3ポイントの向上となり、目標の2.0ポイントを大幅に達成することができました。

今後も金属材料の歩留まりを向上させ、廃棄物の発生抑制に取り組んでまいります。

※2 市場で流通している標準的なサイズの鋼板材料。
 ※3 板金の打ち抜き加工に用いられるプレス機械。

